

## 焼岳火山の火口位置情報

**概要** 焼岳火山の火口や噴出中心の位置情報を、火口であるかどうかの確度付きの情報としてまとめた。2300年前の最後のマグマ噴火以降に形成された、水蒸気噴火により形成されたと推定される火口などは、山頂周辺に分布し、気象庁や火山防災協議会が想定火口域としている範囲内に分布する。

**本文** 産総研地質調査総合センターでは、現在、観測、測量、調査及び研究の充実等が必要な51火山を対象に、完新世に活動した火口や噴出中心（以下、火口と書く）の位置情報を、火口であるかどうかの確度付きの情報とあわせてまとめている。火口であるかどうかの確度は、地形情報と地質情報それぞれに与えて、それらの組み合わせで「確実」（赤）、「可能性が高い」（オレンジ）、「可能性がある」（黄）の三段階で表記している（図1、表1）。なお、地形情報は、国土地理院が管理している航空レーザ測量結果から作成した赤色立体地図（アジア航測作成）を使用して地形判読したものである。地形情報に基づく確度は高いものから低い順にⅠ、Ⅱ、Ⅲで示している。地質情報は、既存の文献や現地調査の結果を基にまとめた。地質情報に基づく確度は、高いものから低い順にa、b、cの三段階に区分している。これら地形・地質情報からの確度の組み合わせで、火口であるかの確度を区分している。なお、これら火口位置情報のまとめの方針や確度などの詳しい解説は、及川ほか（2024）にまとめられているので参照されたし。

図1は、このようにしてまとめた、焼岳火山の火口位置情報を国土地理院の地理院地図上に示したものである。火口地形が残っているものは線で、溶岩の噴出中心やその後の活動で埋積された火口の位置は、○（円）で示している。脇に添えた数字は各火口に割り振ったIDで、そのIDごとに確度などの情報をまとめたものは、表1に示している。なお、焼岳に関しては、「可能性が低い」火口は存在していない。なおこれら一連のデータは、シェイプファイルとしてまとめ、産総研地質調査総合センター研究資料集で公表予定である。

焼岳では、既存の噴火史、火山形成史の研究を基にすると、○で示した噴出中心は、すべてマグマ噴火の噴出中心で、線で示した火口地形は2300年前の最後のマグマ噴火以降に形成された水蒸気噴火の火口と推定される。水蒸気噴火により形成されたと推定される火口は、山頂周辺に分布し、気象庁や火山防災協議会が想定火口域としている範囲内に分布する。

### 文献

及川輝樹（2002）焼岳火山群の地質-火山発達史と噴火様式の特徴. 地質学雑誌, 108巻, 615-632.

及川輝樹・奥野 充・中村俊夫（2002）北アルプス南部、焼岳火山の最近3000年間の噴火史. 地質学雑誌, 108巻, 88-102.

及川輝樹・古川竜太・川邊禎久・宝田晋治・石塚吉浩（2024）噴火口図のための火口位置データと完新世噴火イベントデータの作成ガイドライン. 地質調査総合センター速報, 86号, 59-63.

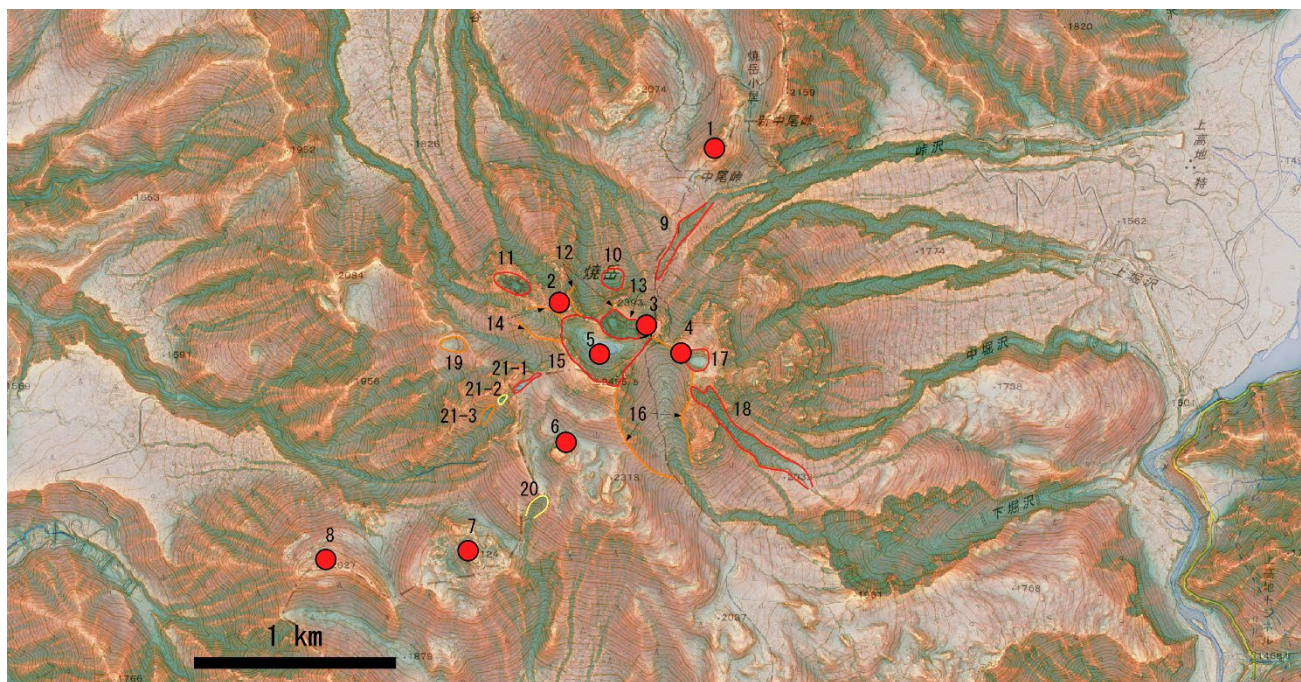


図1 焼岳の完新世に活動した火口位置情報。背景地図は地理院地図に作成した赤色立体地図を重ねたものを使用。それぞれの確度は、赤が「確実」、オレンジが「可能性が高い」、黄色が「可能性がある」である。

表1 焼岳の完新世に活動した火口の確度情報など。

火山ID	火山名	火山ID	火口名	火口名文献等	地形確実度	地質確実度	地質確実度の文献	備考	火口確実度
vol_num	vol_name	craterID	crat_name	crat_ref	topo_cert	geo_cert	geo_ref	note	certainty
E62	焼岳	1			I	a	及川 (2002) 地質学雑誌	中尾峠溶岩の噴出中心	確実
E62	焼岳	2			I	a	及川 (2002) 地質学雑誌	焼岳円頂丘溶岩の噴出中心	確実
E62	焼岳	3			I	a	及川 (2002) 地質学雑誌	焼岳円頂丘溶岩の噴出中心	確実
E62	焼岳	4			I	a	及川 (2002) 地質学雑誌	焼岳円頂丘溶岩の噴出中心	確実
E62	焼岳	5			I	a	及川 (2002) 地質学雑誌	焼岳円頂丘溶岩の噴出中心	確実
E62	焼岳	6			I	a	及川 (2002) 地質学雑誌	下堀沢溶岩の噴出中心	確実
E62	焼岳	7			I	a	及川 (2002) 地質学雑誌	細池円頂丘溶岩の噴出中心	確実
E62	焼岳	8			I	a	及川 (2002) 地質学雑誌	細池円頂丘溶岩の噴出中心	確実
E62	焼岳	9	1962年火口	及川ほか (2002)	III	a	及川ほか (2002) 地質学雑誌	1962年噴火で形成	確実
E62	焼岳	10	1962年火口	及川ほか (2002)	II	a	及川ほか (2002) 地質学雑誌	1962年噴火で形成	確実
E62	焼岳	11	黒谷火口	及川ほか (2002)	I	a	及川ほか (2002) 地質学雑誌	1923年形成. その後1939年まで活	確実
E62	焼岳	12			II	b			可能性が高い
E62	焼岳	13	隠居穴火口	及川ほか (2002)	I	a	及川ほか (2002) 地質学雑誌	1911年形成. その後1939年まで活	確実
E62	焼岳	14			II	b			可能性が高い
E62	焼岳	15	正賀池火口	及川ほか (2002)	I	a	及川ほか (2002) 地質学雑誌	1907~39年に活動. それ以前も存	確実
E62	焼岳	16	下堀沢火口	及川ほか (2002)	II	b	及川ほか (2002) 地質学雑誌		可能性が高い
E62	焼岳	17	醒ヶ池火口	及川ほか (2002)	I	a	及川ほか (2002) 地質学雑誌		確実
E62	焼岳	18	大正池噴火火口		III	a	及川ほか (2002) 地質学雑誌	1915年大正池形成の噴火で形成.	確実
E62	焼岳	19			II	c2			可能性が高い
E62	焼岳	20			III	c2			可能性がある
E62	焼岳	21-1			I	c2			確実
E62	焼岳	21-2			II	c2			可能性がある
E62	焼岳	21-3			III	c2			可能性が高い